持帰り厳禁

問題用紙は、試験監督員からの開始の指示があるまで
一切開かないでください。

令和８年度

第 一 種 販 売　　法 令 試 験 問 題

JX

試験時間　9:30 ～ 10:30

〔注意事項〕

1. **配布された問題用紙の種類（左上に黒地白文字で示しています。）が受験する試験の種類に間違いがないか、また、問題用紙と受験番号札の色が合致しているかどうか、必ず確認してください。**
   万一、異なる場合は、速やかに試験監督員に申し出てください。
2. 答案用紙に記入されている受験番号、氏名等を確認し、間違いがあれば「受験者住所等修正票」を請求し、正しい内容を記入して試験監督員に提出してください。
3. 解答は、各問題の下に掲げてある (1) ～ (5) の解答選択肢の中から、**最も適切なものを一つ選び、答案用紙にマーク**してください。
   １問につき二つ以上の解答を選択し、答案用紙にマークした場合には、その問については０点になります。
4. 採点はコンピュータで処理しますので、答案用紙にマークする場合には、枠いっぱいにはみ出さないように黒く塗りつぶしてください。
5. 筆記用具は、**鉛筆又はシャープペンシル（ＨＢ又はＢ）以外使用できません。**
6. 訂正する場合は、**消しゴムでていねいに消してから訂正**してください。
7. **問題の内容に関する質問にはお答えできません。**
8. 試験開始後、30 分間は退室できません。
9. **この問題用紙は回収します。**途中退室する方は退室時に、最後まで受験する方は試験終了時に答案用紙と併せてこの問題用紙を提出してください。

一販(法)JX

次の各問について、高圧ガス保安法に係る法令上正しいと思われる最も適切な答えを選択肢の中から一つ選びなさい。

なお、この試験は、次による。

(1) 令和８年４月１日現在施行されている高圧ガス保安法に係る法令に基づき出題している。

(2) 経済産業大臣が危険のおそれがないと認めた場合等における規定は適用しない。

(3) 試験問題中、「都道府県知事等」とは、都道府県知事又は高圧ガス保安法に関する事務を処理する指定都市の長をいう。

問１ 次の記述のうち、正しいものはどれか。

イ．高圧ガス保安法は、高圧ガスによる災害を防止して公共の安全を確保する目的のため、高圧ガスの製造、貯蔵、販売及び移動を規制することのみを定めている。

ロ．収容定員300人以上である劇場は、一般高圧ガス保安規則に定める第一種保安物件である。

ハ．圧力が 0.2 メガパスカルとなる場合の温度が 35 度以下である液化ガスは、現在の圧力が 0.1 メガパスカルであっても、高圧ガスである。

(1) ロ　(2) ハ　(3) イ、ロ　(4) ロ、ハ　(5) イ、ロ、ハ

問２ 次の記述のうち、正しいものはどれか。

イ．第二種貯蔵所の所有者又は占有者は、貯蔵所ごとに帳簿を備え、その第二種貯蔵所に異常があった場合には、異常があった年月日及びそれに対してとった措置をその帳簿に記載し、これを記載の日から10年間保存しなければならない。

ロ．車両に積載した容器により高圧ガスを貯蔵することは、特に定められた場合を除き、禁じられている。

ハ．可燃性ガスを充塡容器及び残ガス容器により貯蔵する場合は、そのガスが漏えいしたとき拡散しないように通風の良い場所でしてはならない。

(1) イ　(2) ロ　(3) イ、ロ　(4) イ、ハ　(5) イ、ロ、ハ

問３　次の記述のうち、正しいものはどれか。

イ．販売業者は、新たに販売所を設けた場合、軽微な変更として、その販売所における高圧ガスの販売の事業開始後遅滞なく、その旨を都道府県知事等に届け出ればよい。
ロ．販売業者は、その販売の方法を変更したときは、その旨を都道府県知事等に届け出なければならないが、その販売の事業を廃止したときは、その旨を届け出なくてよい。
ハ．容器に充塡された高圧ガスの輸入をした者は、その高圧ガス及び容器について都道府県知事等が行う輸入検査を受けた場合、これらが輸入検査技術基準に適合していると認められた後、これを移動することができる。

(1)　ロ　　(2)　ハ　　(3)　イ、ハ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問４　次の記述のうち、正しいものはどれか。

イ．質量3000キログラム以上の液化酸素を移動するときは、運搬の経路、交通事情、自然条件その他の条件から判断して、１人の運転者による連続運転時間が所定の時間を超える場合、交替して運転させるため、車両１台について運転者２人を充てなければならない。
ロ．常用の温度35度において圧力が１メガパスカルとなる圧縮ガス(圧縮アセチレンガスを除く。)であって、現在の圧力が0.9メガパスカルのものは、高圧ガスではない。
ハ．ヘリウムは、一般高圧ガス保安規則に定められている廃棄に係る技術上の基準に従うべき高圧ガスに該当する。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　イ、ロ　　(4)　イ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問５　次の記述のうち、正しいものはどれか。

イ．高圧ガスの貯蔵所が危険な状態となったときに、直ちに、災害の発生の防止のための所定の応急の措置を講じなければならない者は、第一種貯蔵所又は第二種貯蔵所の所有者又は占有者に限られる。
ロ．販売業者は、その販売所に販売主任者を選任している場合、その従業者に保安教育を施さなくてよい。
ハ．販売業者は、その所有し、又は占有する高圧ガスについて災害が発生したときは、遅滞なく、その旨を都道府県知事等又は警察官に届け出なければならない。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　ハ　　(4)　イ、ハ　　(5)　ロ、ハ

問６　高圧ガスを充塡するための容器(再充塡禁止容器を除く。)及びその附属品に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

イ．容器の製造をした者は、その容器に自主検査刻印等をしたもの又はその容器が所定の容器検査を受け、これに合格し所定の刻印等がされているものでなければ、特に定められたものを除き、その容器を譲渡し、又は引き渡してはならない。
ロ．容器に充塡する液化ガスは、刻印等又は自主検査刻印等で示された種類の高圧ガスであり、かつ、容器に刻印等又は自主検査刻印等で示された最大充塡質量の数値以下のものでなければならない。
ハ．容器の附属品を廃棄するときは、その附属品をくず化し、その他附属品として使用することができないように処分しなくてよい。

(1)　イ　　(2)　イ、ロ　　(3)　イ、ハ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問７　高圧ガスを充塡するための容器(再充塡禁止容器を除く。)に関する次の記述のうち、容器保安規則上正しいものはどれか。

イ．液化アンモニアを充塡するための溶接容器の容器再検査の期間は、その容器の製造後の経過年数に応じて定められている。
ロ．容器の外面に表示すべき事項に変更があったときは、次回の容器再検査時にその表示を変更することと定められている。
ハ．圧縮窒素を充塡する容器の刻印のうち、「TP 24.5Ｍ」は、その容器の耐圧試験における圧力が24.5メガパスカルであることを表している。

(1)　イ　　(2)　ハ　　(3)　イ、ロ　　(4)　イ、ハ　　(5)　ロ、ハ

問８　特定高圧ガス消費者に係る技術上の基準に関する次の記述のうち、一般高圧ガス保安規則上正しいものはどれか。

イ．特殊高圧ガス、液化アンモニア又は液化塩素の消費設備に係る配管、管継手及びバルブの接合は、特に定める場合を除き、溶接により行わなければならない。
ロ．貯蔵設備と減圧設備との間の配管の耐圧試験は、水その他の安全な液体を使用して行う場合は常用の圧力の 1.5 倍以上の圧力で行わなければならない。
ハ．貯蔵能力が 2000 キログラムの液化塩素の消費施設の貯蔵設備は、その外面から第一種保安物件及び第二種保安物件に対し、それぞれ所定の距離を有しなければならないが、減圧設備は、その必要はない。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　イ、ロ　　(4)　イ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問９　特定高圧ガス消費者が消費する特定高圧ガス以外の高圧ガスの消費に係る技術上の基準に関する次の記述のうち、一般高圧ガス保安規則上正しいものはどれか。

イ．空気は、消費に係る技術上の基準に従うべき高圧ガスとして定められていない。
ロ．充塡容器及び残ガス容器には、湿気、水滴等による腐食を防止する措置を講じるとともに、転落、転倒等による衝撃又はバルブの損傷を受けないよう粗暴な取扱いをしてはならない旨の定めがある。
ハ．可燃性ガス及び酸素の消費施設(在宅酸素療法用のもの及び家庭用設備に係るものを除く。)には、その規模に応じて、適切な消火設備を適切な箇所に設けなければならないが、三フッ化窒素についてはその定めはない。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　ハ　　(4)　イ、ロ　　(5)　ロ、ハ

問10　特定高圧ガス消費者が消費する特定高圧ガス以外の高圧ガスの消費に係る技術上の基準に関する次の記述のうち、一般高圧ガス保安規則上正しいものはどれか。

イ．シアン化水素を消費するときは、特に定められたものを除き、容器に充塡した後 60 日を超えないものを消費しなければならない。
ロ．可燃性ガスの消費設備に設けたバルブのうち、保安上重大な影響を与えるバルブには、作業員が適切に操作することができるような措置を講じなければならないが、それ以外のバルブにはその措置を講じる必要はない。
ハ．消費設備(家庭用設備を除く。)を開放して修理又は清掃をするときは、その消費設備のうち開放する部分に他の部分からガスが漏えいすることを防止するための措置を講じなければならない。

(1)　ハ　　(2)　イ、ロ　　(3)　イ、ハ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問11　販売業者が容積0.15立方メートルを超える高圧ガスを容器(高圧ガスを燃料として使用する車両に固定した燃料装置用容器を除く。)により貯蔵する場合、貯蔵の方法に係る技術上の基準に関する次の記述のうち、一般高圧ガス保安規則上正しいものはどれか。

イ．質量が1.5キログラムを超える液化塩素は、貯蔵の方法に係る技術上の基準に従って貯蔵しなければならない。
ロ．圧縮空気を充塡する一般複合容器は、その容器の刻印等で示された年月から15年を経過していない場合、圧縮空気の貯蔵に使用することができる。
ハ．シアン化水素を貯蔵するとき、充塡容器については、１日１回以上そのガスの漏えいがないことを確認しなければならないが、残ガス容器については、その定めはない。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　イ、ロ　　(4)　イ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問12　販売業者が容積0.15立方メートルを超える高圧ガスを容器(高圧ガスを燃料として使用する車両に固定した燃料装置用容器を除く。)により貯蔵する場合、貯蔵の方法に係る技術上の基準に関する次の記述のうち、一般高圧ガス保安規則上正しいものはどれか。

イ．「容器置場には、計量器等作業に必要な物以外の物を置かないこと。」の定めは、不活性ガスのみを貯蔵する容器置場には適用されない。
ロ．液化アンモニアの容器置場には、携帯電燈以外の燈火を携えて立ち入ってはならない。
ハ．塩素の容器置場の周囲２メートル以内においては、火気の使用を禁じ、かつ、引火性又は発火性の物を置いてはならない。ただし、容器と火気又は引火性若しくは発火性の物の間を有効に遮る措置を講じた場合は、この限りでない。

(1)　ロ　　(2)　ハ　　(3)　イ、ロ　　(4)　イ、ハ　　(5)　ロ、ハ

問13　容器(配管により接続されていないものに限る。)により高圧ガスを貯蔵する第二種貯蔵所に係る技術上の基準に関する次の記述のうち、一般高圧ガス保安規則上正しいものはどれか。

イ．酸素のみを貯蔵する容器置場は、２階建とすることができる。
ロ．アンモニアの容器置場は、そのアンモニアが漏えいしたとき滞留しないような通風の良い構造であれば、漏えいしたガスを安全に、かつ、速やかに除害するための措置を講じる必要はない。
ハ．不活性ガスのみの容器置場であっても、容器置場は明示され、かつ、その外部から見やすいように警戒標を掲げなければならない。

(1)　ハ　　(2)　イ、ロ　　(3)　イ、ハ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問14　車両に固定した容器(高圧ガスを燃料として使用する車両に固定した燃料装置用容器を除く。)による高圧ガスの移動に係る技術上の基準等に関する次の記述のうち、一般高圧ガス保安規則上正しいものはどれか。

イ．容器(その容器の頂部に設けた附属品を含む。)の地盤面からの高さが車両の地盤面からの最大高より高い場合には、高さ検知棒を設けなければならない。
ロ．質量3000キログラムの液化酸素を移動するとき、第一種販売主任者免状の交付を受けている者であれば、高圧ガス保安協会が行う高圧ガスの移動についての講習を受けていなくても、その移動についてその者に監視させることができる。
ハ．三フッ化窒素を移動するときは、消火設備並びに災害発生防止のための応急措置に必要な資材及び工具等を携行するほかに、防毒マスク、手袋その他の保護具並びに災害発生防止のための応急措置に必要な資材、薬剤及び工具等も携行しなければならない。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　ハ　　(4)　イ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問15 車両に積載した容器(内容積が47リットルのもの)による高圧ガスの移動に係る技術上の基準等に関する次の記述のうち、一般高圧ガス保安規則上正しいものはどれか。

イ．塩素の充塡容器及び残ガス容器と同一車両に積載してはならない高圧ガスの充塡容器及び残ガス容器は、アセチレン又は水素に係るものに限られる。
ロ．アセチレンを移動するときは、その高圧ガスの名称、性状及び移動中の災害防止のために必要な注意事項を記載した書面を運転者に交付し、移動中携帯させ、これを遵守させなければならない。
ハ．酸素の充塡容器とアンモニアの残ガス容器とを同一車両に積載して移動するときは、これらの容器のバルブが相互に向き合わないようにしなければならない。

(1) ロ　(2) ハ　(3) イ、ロ　(4) ロ、ハ　(5) イ、ロ、ハ

問16 高圧ガスの廃棄に係る技術上の基準に関する次の記述のうち、一般高圧ガス保安規則上正しいものはどれか。

イ．酸素の廃棄は、バルブ及び廃棄に使用する器具の石油類、油脂類その他の可燃性の物を除去した後にしなければならない。
ロ．空気を廃棄する場合において廃棄の場所、数量、廃棄の方法についての技術上の基準は、定められていない。
ハ．液化アンモニアを廃棄するため、充塡容器又は残ガス容器を加熱するときは、温度40度以下の温湯を使用することができる。

(1) イ　(2) ハ　(3) イ、ロ　(4) イ、ハ　(5) イ、ロ、ハ

問17 高圧ガスの販売の方法に係る技術上の基準に関する次の記述のうち、一般高圧ガス保安規則上正しいものはどれか。

イ．圧縮天然ガスを燃料の用に供する一般消費者に圧縮天然ガスを販売するときは、消費のための設備について、硬質管以外の管と硬質管又は調整器とを接続する場合にその部分がホースバンドで締め付けられていることも確認した後にしなければならない。
ロ．充塡容器又は残ガス容器の引渡しは、外面に容器の使用上支障のある腐食、割れ、すじ、しわ等がなく、かつ、そのガスが漏えいしていないものをもって行わなければならない。
ハ．販売業者は、他の高圧ガスの販売業者にヘリウムを販売する場合、その引渡し先の保安状況を明記した台帳を備える必要はない。

(1) ロ　(2) イ、ロ　(3) イ、ハ　(4) ロ、ハ　(5) イ、ロ、ハ

問18　販売業者に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

イ．酸素とアセチレンガスを販売している販売所において、その販売する高圧ガスの種類の変更として二酸化炭素を追加したときは、その旨を遅滞なく、都道府県知事等に届け出なければならない。
ロ．販売業者が選任していた販売主任者を解任し、新たに販売主任者を選任した場合には、その解任した販売主任者については、その旨を都道府県知事等に届け出るべき定めはない。
ハ．メタンを販売する販売所の販売主任者には、第一種販売主任者免状の交付を受け、かつ、アンモニアの販売に関する６か月の経験を有する者を選任することができる。

(1)　イ　　(2)　ハ　　(3)　イ、ロ　　(4)　イ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問19　販売業者が販売する高圧ガスを購入して消費する者に対し、所定の方法により、その高圧ガスによる災害の発生の防止に関し必要な所定の事項を周知させなければならない場合、その対象となる高圧ガス及びその用途に関する次の組み合わせのうち、一般高圧ガス保安規則上正しいものはどれか。

イ．在宅酸素療法用の液化酸素
ロ．溶接用のアルゴン
ハ．スクーバダイビング等呼吸用の空気

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　ハ　　(4)　イ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問20　販売業者が販売する高圧ガスを購入して消費する者に対し、所定の方法により、その高圧ガスによる災害の発生の防止に関し必要な所定の事項を周知させなければならない場合、その周知させるべき事項に関する次の記述のうち、一般高圧ガス保安規則上正しいものはどれか。

イ．「ガス漏れを感知した場合その他高圧ガスによる災害が発生し、又は発生するおそれがある場合に消費者がとるべき緊急の措置及び販売業者に対する連絡に関する基本的な事項」は、周知させるべき事項である。
ロ．「使用する消費設備のその販売する高圧ガスに対する適応性に関する基本的な事項」は、周知させるべき事項である。
ハ．「消費設備の変更に関し注意すべき基本的な事項」は、周知させるべき事項ではない。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　イ、ロ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ